

正しいと信じていたことが本当はそうではなかったことが判明した時、事の内容によつてさほど気にならなかったり、とても驚いたり、喜んだり、がっかりしたり、憤ることさえある。

過日、新聞で「盲腸のような」の意味という記事を読んだ。それによると「盲腸のような」と言えば、それは「何の役にも立たない」とか「別に無くても構わない」という意味だろう。一般的に「盲腸」というのは、時にひどい腹痛を起こして手術が必要になる厄介者という程度にしか考えられていなかった。

こういう時に使われる「盲腸」というのは、厳密には盲腸から伸びる「虫垂」という器官のことで、俗に「盲腸」と呼ばれる病気は「虫垂炎」と言うのが正式である。しかし、その虫垂の「無用の長物」ぶりが否定されつつある。大阪大学の竹田潔教授らは本年四月「虫垂は大腸に免疫細胞を供給し、腸内細菌のバランスを保つ役割を果たしている」という論文を

発表した。

腸内にすむ細菌は百兆個以上もあるとされ、バランスが崩れると病気になるたり、食中毒に弱くなったりする。

人間には虫垂が不要なら手術で取ったところで問題はなく、事実、これまでは他の病気の開腹手術のついでに虫垂を取ってしまうという例もあったらしい。だが、腸内細菌のバランスを整える機能があるなら、むやみに切開するのは望ましくない。

竹田教授は「虫垂には過去の遺物のようなイメージがあり、悪さだけが目についていた。でも、我々の目の見えないところで黙々と働いていた」と話す。今後、「盲腸のような」と言ったら、それは「目立たないけれど裏方で大事な仕事をしている」という意味になるかもしれないので、使い方にはご注意ください。

この記事は「盲腸のような」という言葉の意味合いと共に、盲腸の機能が無から有に、百八十度転換されたことを伝えていく。実は、こうしたケースは時折起き

鎌倉歴史散歩のお知らせ (26年度)

日時 平成26年11月22日(土)
10時集合
場所 鎌倉駅東口改札
表駅(八幡宮がわ)
連絡先 嶋村会長 0467(31)7474
携帯 090-6931-7328
※雨天(小雨も含む) 中止

今年も「鎌倉歴史散歩」を開催します。この会報の第一頁を参照の上、ご家族、ご友人とお誘い合わせてお気軽にご参加下さい。

今年も「鎌倉歴史散歩」を開催します。この会報の第一頁を参照の上、ご家族、ご友人とお誘い合わせてお気軽にご参加下さい。



百八十度の転換

深友会 (深沢中学校同窓会) 会長 (第八回生) 嶋村勝美

深沢中学校
同窓会報

深友会だより

第17号

鎌倉市立
深沢中学校
深友会事務局
〒247-0063
鎌倉市梶原1-14-1
☎0467-44-1222

いると思われる。ただ、この場合は盲腸の機能が見直されたということさほど影響はないと思われるが、これが人体や社会に著しい影響を及ぼすことになることは重大である。

例えば、誤った知見で遺伝すると長い間いわれてきた「ハンセン病患者とその家族」とか、絶対安全だと信じ込まされてきた「原子力発電」等は、見事に百八十度ひっくり返つてしまい、多くの人々を苦しめ、社会的・人道的に甚大な影響を及ぼした。

いろいろな研究が進み、科学の進歩によつて社会が発展していくことは喜ばしいことではあるが百パーセント良しというのみにせず、そのうちに百八十度変わってしまうかもしれないと思う気持ちのバイアスを持つことも必要なのではないだろうか」と「盲腸のような」の記事から考えさせられた。

※昨年の第十六号拙文で「袖すり合うも多少の縁」の多少が多生の誤りでしたので訂正しお詫び申し上げます。

鎌倉歴史散歩に参加して

平成二十五年十月二十三日(土)、鎌倉駅東口十時集合。若宮大路添いに下馬四ツ角へ。続いて浜の鳥居跡。平成二年に発見された。しばらく行くとノ鳥居の脇に畠山重保の墓塔。ここに邸宅があった。そして滑川橋に着く。今まで気づかなかつた校員の歌の碑あり。材木座方面歩く途中、砂浜にピンク色の校員を発見。思わず校員の歌を口ずさみながら歩く。和賀江嶋が見えくる。現存する最古の築港跡を見ながら市界を過ぎると、すぐに六角の井。鎌倉十井の一つ。右手に逗子マリーナを見ながら小坪漁港を通り、狭い路地の坂を上りつめて行くと大崎公園に到着。ここでトビに気をつけながらの昼食。眼下には小坪の漁港。逗子マリーナ、遥かに富士箱根から伊豆大島まで見渡される。頂上に泉鏡花の「兎の文学碑」。明治四十年ころ、しばらく逗子に住んでいた。大崎公園から広々とした敷地の庭園住宅を通り抜けてしばらく上がつて行くと、披露山の頂上に着く。太平洋戦争中海軍の砲台があった。北西方向に七里ヶ浜、江の島から丹沢連山、南方に葉山海岸、伊豆大島まで見渡す眺めは格別。下る途中、天照大神社を参拝し、小坪に戻り、再び材木座へ。予定にはなかったが浄土宗の大本山「光明寺」へ。大きな山門より本堂へ。ちょうど得度式(お坊さんになる儀式)が終了ところ。石庭へ人も少なくゆつくりと参拝ができた。駅迄はバスを利用し、散会。

今回は天気に恵まれ人も少なく、ゆつくりと参拝ができた。駅迄はバスを利用し、散会。

皆様参加をお待ちしております！ (秋元邦夫)

夏の部活動

ゲリラ豪雨と猛暑、という厳しい天候にも負けず、今年度も夏の大会や深中祭に向けての活動が熱く展開されました。どの部活も全力を尽くし、各大会で健闘しました。また、深中祭の発表のために地道に取り組んでいる部もありました。これからも深沢中学校の活躍と発展を温かく見守っていただくよう、よろしくお願いいたします。今年度の生徒の活躍は以下の通りです。

各部活動の夏季大会の結果

陸上部	9月23日(火)	鎌倉市総合体育大会陸上競技の部
バスケット部(男子)	市内大会 湘南大会	3位 出場
バスケット部(女子)	市内大会 湘南大会	準優勝 出場
サッカー部	市内大会	出場
軟式野球部	市内大会	3位
バレー部	市内大会 湘南大会	出場 出場
ソフトテニス部(男子)	市内大会	個人戦ベスト8 (佐藤・安齊) 団体戦3位 (佐藤・安齊・相原・石井・毛利・平野)
ソフトテニス部(女子)	市内大会	個人戦出場 団体戦出場
卓球部(男子)	湘南大会	個人戦出場 (大西・三橋)
卓球部(女子)	市内大会 湘南大会	団体戦3位 (増川・森・大山・小川・飯山・寒風澤) 個人戦出場 (増川・森・大山)
剣道部(男子)	市内大会	団体戦5位 (降旗・前田・伊藤・相原・足立)
剣道部(女子)	市内大会	団体戦5位 (藤井・三枝・森山)
吹奏楽部	第15回神奈川県南吹奏楽コンクール	金賞
合唱部	TBS こども音楽コンクール NHK 全国学校音楽コンクール	横浜地区大会 優秀賞 神奈川県 予選 奨励賞
科学部	鎌倉市中学校模型飛行機大会	出場

2013年度 卒業生進路状況

私立高校	公立高等学校
沼 沼 平 塚 学 園 湘南工科大学附属 山 手 学 院 三 浦 学 苑 湘 南 学 院 旭 丘 アレセイア湘南 柏 木 学 園 日 大 藤 沢 横 浜 学 園 横 須 賀 学 院 横 浜 隼 人 横 浜 創 英 横 浜 創 学 館 横 浜 清 風 横 浜 商 科 大 相 洋 桐 蔭 学 園 麻布大附属淵野辺 橘 学 苑 藤 嶺 学 園 藤 沢 鎌 倉 学 園 藤 沢 翔 陵 鎌倉女子大学高等部 北鎌倉女子学園 白 鵬 女 子 慶 応 女 子 東 海 大 三 高 東 京 日 々 輝 学 園 YMCA 高等学院 ク ラ ー ク ヒューマンキャンパス 横浜アカデミー 町田調理師専門学校	陵 谷 保 土 ヶ 金 井 柏 陽 横 浜 緑 ヶ 丘 氷 取 沢 横 須 賀 逗 子 鎌 倉 七 里 ガ 浜 大 船 深 沢 湘 南 藤 沢 西 湘 南 台 茅 ヶ 崎 北 陵 鶴 嶺 茅 ヶ 崎 西 浜 寒 川 西 湘 ・ 理 数 釜 利 谷 横 浜 桜 陽 横 浜 栄 藤 沢 清 流 (横) 戸塚・音楽 平塚農業・農業総合 平 塚 工 科 神奈川工業・建築 藤 沢 工 科 横須賀光明・福祉 金 沢 総 合 藤 沢 総 合 養護学校 藤 沢 養 護 定時制 横 浜 明 朋 通信制 横 浜 修 悠 館 国 立 学 芸 大 附 属
私立 69名	公立 96名

地域と共に歩む深沢中学校

鎌倉市立深沢中学校 校長 秋山 定明

二学期を間近に控えた夏休みのある日、校長室に飾られた歴代校長の写真を見つめながら『深沢中学校開校五十年記念誌（深中の五十年）』のページをめくっていました。記念誌によると深沢中は、昭和二十二年五月一日に新学区制により深沢村立深沢中学校として深沢小学校に併設され開校してから、今年で六十八年目になります。昭和二十

年代は『混乱の中で開校―悲願の校舎建設』、昭和三十年代は『平穩の後にやってきた苦闘の時代』、昭和四十年代は『百重の新校舎誕生』、昭和五十年代は『校舎建築総合計画のすべてが完成、週刊誌に紹介されて有名校に』、昭和六十年代から現代は『生徒数の減少―ゆとりの教育内容』と表題がつけられ、その年代ごとの出来事が、卒業生の思い出とともに綴られています。時代の変遷と共に変わっていった深沢中に思いを巡らせ、長い歴史の重みを感じました。

本年度在籍する生徒は四百五十九名。昭和50年代後半に比べると三分の一に減少しました。しかし二十世紀の主役となる生徒たちは、卒業生と同じように三年間ここで学習や部活動に励んでいます。さらに総合的な学習では、地域にある様々な業種の事業所（数十

か所）の協力をいただき職場訪問（年生）や職場体験（二年生）を行っています。貴重な体験は、社会で生きることの意義や将来について考えるきっかけとなり、社会の一員としての礼儀やマナー、人との関わり方なども学ばせていただいております。

また、学校周辺の草木の手入れなどの環境整備や登下校中の見守りなど地域の方々に幅広く支えられています。保護者や地域の方々、教師が相互に連携・協力し、子ども達を育て一緒に成長を見守っている深沢中は恵まれた環境にあると思います。

本校を母校と呼ぶ人たちは、この春で四、五九四名。地域や県内はもちろん、県外や海外でも広く活躍しています。今在籍している生徒たちもやがてその一員として巣立っていきます。

本校が、教育に対する地域の皆様の熱い思いに支えられ、価値ある存在として今日まで続いていることの素晴らしいこと、深沢中の歩んできた歴史を思う時、私の責務はこの深沢中をより一層地域に愛される学校に発展させていくことではないかと痛感しています。

私を育ててくれた深沢中学校

昭和四十九年卒業（第二十六回生）
鎌倉市立今泉小学校 校長 三島 久司

関西で生まれ、父の転勤で鎌倉・深沢に引っ越してきた私は、当時、児童数が非常に増え、柏尾川沿いの社宅に住んでいたからでしょうか、深沢小学校ではなく、江戸電バスとＪＲ（国鉄）を乗り継いで六年間、第二小学校に通学しました。

そして、深沢中学校に入学したのが昭和四十六年の四月でした。私以外にも他の小学校から学区の深沢中学校に進学した人も大分いたこと、クラスには顔見知りの友だちは殆ど居らず、期待と同時に不安に満ちていたことを覚えています。小学四年から始めたサッカーを中学も続けていこうかなと思っていたところ、最初に仲良くなった友人が「プラン（吹奏楽部の練習を見てみたい。）」との希望で、音楽室に見学に行きました。ドアを開けると、先輩方は女子のみで、気が付くと、楽器を持たされ「明日からも来てね。」と新人の男子部員として所属することになりました。入部してみると、顧問の先生も、先輩方もとても優しく、とても熱心な活動振り、満足に楽譜もよめなかった私が（サッカー部の練習を見に行くこともなく）三年間、「角刈りの楽器吹き」として活動できました。

また、クラスでも直ぐに皆と仲良くなれ、教科書ノートでズッシリと重い鞆での登校が、毎日とても楽しかったです。

さらに、部活動やクラス内だけでなく、行事等の様々な活動とおして、また日常生活の中で、友人が増えていきました。仲間たちと様々な活動を行い、たくさんのお話を語り合ったこと、何よりも、中学校からの新参者だった私を分け隔てなく受け入れ、認めてくれたことが非常に嬉

しく、一層、中学校生活に力を注ぐことができ、毎日の生活がとても充実していたことを、今でも鮮明に思い出せます。

そして、担任していただいた佐々木（旧姓永井）先生、布川先生を始めとした諸先生方と出会い、ご指導いただいたことが、私の心の中の大きな核となっています。人として、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。心から尊敬できる先生方に出会え、多感な中学校時代にご指導いただき、共に活動していただいたことに、今も感謝し、懐かしく思い出します。私が教職の道を選んだのも、深沢中学校での生活、友人たちと、そして先生方との出会いがあったからです。中学校卒業後に深沢を離れてしまいました。が、先日開かれた第二回の同期会で、先生方や懐かしい友人たちと再会でき、とても楽しいひと時を過ごすことができました。また、市内の勤務で、深沢中学校関係の皆様との出会いがあることも、現在の楽しみの一つです。

同期会だより

＊卒業生第十七回生昭和四十年卒＊

節目となる六十五歳を迎え、久々に学年（全四組）による同窓会を平成二十六年六月二十一日（土）に中学校地元深沢の居酒屋で行いました。四十六名の参加でなつかしい面々に会えて皆さん楽しい想いなどを語りました。

幹事 金澤 俊生



みんな元気かあ？

～盛り上がり～ 卒業四十周年～

還暦前夜祭！

昭和四十九年卒業 沼上 清

同窓会の幹事を代行する会社が流行っています。三年前の東日本大震災後、旧友との繋がりを大切にする人が増えているそうです。そうした代行会社によれば、「五十～六十代でいえば、案内状を送付した人数の二割五分も集まれば成功。二十代前半は五～六割、二十代後半～三十代で四割、四十代で三割といったところ。」だそうです。梅雨の中休みを思わせる様な青空が広がる六月十四日（土）午後、深中を卒業して四十年となる同期生七十五名が大船の鎌倉芸術館に集いました。案内状を郵送した数の四割六分に相当する同期生に加えて卒業時にクラス担任をして下さった恩師六名は、再会した途端に四十年前へタイムスリップです。今回十年ぶりの同窓会スローガンは、標題の通り。乾杯前には、日曜午前のテレビ番組などで経済コメンテーターとしても活躍する鈴木明彦氏（愛称：パチ）に「前向き志向への転換へ」という講演をして戴きました。日本の高度経済成長が昭和四十九年の深中卒業とともに終わり、その後の安定成長期やバブル崩壊の中で同期生が歩んできた激動の時代を振り返りながら、今の深中周辺で地元企業が新たに取組んでいる事業や深中の昼食で飲んだ地元牛乳メーカーの今の頑張りを紹介して貰いました。時代を反映した深中周辺の変化の様子は、我々がこれから迎える熟年世代を柔軟に生きるヒントになりました。

そして、乾杯の音頭は生徒会長だった平野隆

一氏。十年前の卒業三十周年同窓会と同じ会場で、同じ仲間や恩師と酌み交わすビールの味は格別でした。卒業当時二十代や三十代だった恩師からは、「今思い出すだけでも恥ずかしい教え方だった。」とか「四十年経つてもこのクラスのことば鮮明に覚えている。」というエピソードが披露され、改めて恩師の有難さを実感しました。参加して戴いた布川先生、室崎先生、永井先生、後藤先生、丹野先生、居波先生、そして今回欠席だった清水先生には、感謝の念でいっぱいです。記念の宴では、七クラスのクラス幹事を中心に同期生の近況を互いに報告し合い、「洲崎を渡る」の校歌を合唱した後は、五年後の「還暦同窓会」での再会を約束して散会しました。この間、約四時間半の同窓会でしたが、愉しく懐かしい時間は、あつという間に流れて行きました。高校受験に悩み、部活動に汗を流しながら、何をするのも一緒だった旧友や密かに憧れていた？異性と久しぶりに再会できたこの同窓会は、心にエネルギーを十分補充する機会となりました。次回五年後は、案内状を郵送した六割以上の同期生が「赤のドレスコード」で集うことを楽しみにしています。



深沢歴史トピックス(二)

第八回生 石井 和行

四・なぜ、深沢という住所はないのか？

深沢の地域は、古くは津、腰越、片瀬などを含めた広大な地域であったが、いくたびかの変遷を経ながら、明治二十二年の町村制の施行以降、梶原、寺分、山崎、上町屋、手広、笛田、常盤の七ヶ村が合併して深沢村となった。

その後、昭和二十三年鎌倉市と合併して以来、深沢という地名は無くなり、住所や町名からも消えてしまい、歴史上の遺名となっていました。もともと、深沢という名前は、多くの地区を含めた広い地域の呼び名であり、ある特定の地域や集落の名前ではなかった。

現在、深沢という名前が使われているのは、モノレールやバスなどの交通機関の駅や停留所、学校や市役所、警察署、消防署などの公的機関、医院、商店などに残るのみである。

五・何故深沢という苗字がないのか？

苗字の多くは、地名に由来するものが多いといわれるが、古来より深沢地区に深沢氏という苗字はなかった。

苗字に関する文献では、次のように説明している。姓氏の語源 丹羽基一 角川書店

「ふかざわ 信濃伊那郡深沢発祥の諏訪氏族と美濃深沢より起る土岐氏族とある。

現在、深沢氏を名乗っている多くの人々のルーツは、文献に説明されている場所が発祥の地で、鎌倉市の深沢ではないようだ。

六・深沢は、日本の有料自動車道路発祥の地である。昭和三年（一九二八）「日本自動車道路株式会社」は大船、鎌倉、江の島の三地区に自動車専用道路を敷設し、沿道に住宅地、遊園地、ゴルフ場を造ってその経営を行う目的で設立された。当時、世界でも有料自動車道路は、イタリ

アだ

けしかなかったという。この会社は、この道路を大船から東京にまで延長しようという計画をもっていた。

そして、二年後の昭和五年（一九三〇）八月二十四日、日本初の有料自動車道路として大船、江の島間が完成開業、引き続き鎌倉山、長谷間が開業した。目白山と深沢の二ヶ所に料金徴収ゲートがあり、その後、昭和五十九年二月（一九八四）鎌倉市が買収し鎌倉市道となった。

今でも、地元では「専用道路」の愛称で親しまれている。

七・深沢には、昔から親しまれている「深沢行進曲」がある。

作詞者や制作年はよく分からないが、各地の祭礼や宴席などで良く歌われたという。

これは、深沢の七地区の歴史、名所、名物を歌詞の中に取り入れてあり、歌いながらその情景が思い出されてくる。ここに七番までを紹介します。

① 妙なる自然をめぐらして、梅の香におう梶原や四方の山々常盤なる硯のみずは永久に

② 谷間に伝う勤行の 山門ゆるぐ鐘の音も今は絶えてその昔 思い出多き寺分や

③ その名も由かし天神の森の響きは変わらねど鎌倉史上かくれなき州崎は今や山崎と

④ 行く手に広き田の面には渡る秋風さらさらとただよう波や金の色早く鎌入れ上町屋

⑤ 笛田の山は鎌倉と湘南の粋全景を集めてすめる秋の月 残る坂路は今も夢

⑥ 忠誠無比の俊基卿 姿雄々しく雲表にそびえて高き富士の嶺は明け暮れ我等が鑑なり

⑦ 心すまして弘法の 鎮大師のみの跡良き日良き友鑑なりいざやはげまん国のため

いざや進まん人の道

続く